

平成28年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (3月8日実施)	総合評価(4月10日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>(1) 単位制の利点をいかした年次進行制の教育課程に基づき、生徒一人ひとりの可能性を最大限に引き出す教育活動を展開する。</p> <p>(2) 基礎的・基本的な知識・技能の習得とそれらを活用する力の育成を図る。</p> <p>(3) 学習意欲を高め、自ら考え、表現する力を育む。</p>	<p>(1) 『育てたい人物像』の育成につながる教育課程を編成する。</p> <p>(2)(3) 徹底して“わかる授業”を追求する授業改善を推進する。</p>	<p>(1) 改革に向けたプロジェクトチーム、『平塚湘風人づくり推進会議』は“確かな学力”のイメージを具体化する。さらに、共通科目を主体とした教科、科目の再編成を行う。</p> <p>(2)(3)</p> <p>① 定期試験結果、基礎力診断テスト等により現状の学力を分析把握し、勉強における“つまずき”を明確にする。</p> <p>② 基礎的な学習内容における“つまずき”を解消するため、授業内容や指導方法を各教科で見直し、本校生に合う“わかる授業”を研究・実践する。</p> <p>③ 小集団、習熟度別学習、TTなど、教育効果の観点からさまざまな学習形態の導入を研究する。</p> <p>④ 各教科が“わかる授業”を目指して教材を工夫し、学習意欲を高め、達成感を持たせることで“確かな学力”を育成する。</p> <p>⑤ 組織的な授業改善の中で、有効な教授内容や指導方法を全教員で研究し、共有する。</p>	<p>(1) 目標を達成する教育課程を編成できたか。(科目設置状況)</p> <p>(2)(3)</p> <p>①②</p> <p>・生徒の基礎学力を育成できたか。(授業への取組状況、学習評価・評定、「生徒による授業アンケート」)</p> <p>③ 学習指導形態の研究を行ったか。(プロジェクトチームの検討内容)</p> <p>④ “わかる授業”を提供したか。(生徒の状況観察、生徒による授業アンケート)</p> <p>⑤ 授業改善の有効性を高めたか。(「生徒による授業アンケート」)</p>	<p>(1) 共通科目を増やすことで基礎学力を定着させ、発展科目で学習意欲や進路希望に応えることで、目標達成を実現させる教育課程が編成できた。</p> <p>(2)(3)</p> <p>・小集団・習熟度別学習、TT等の教育効果の高い授業形態の導入や授業の展開方法の改善(1クラス2展開から2クラス3展開)を前提とした設計とした。</p> <p>・「基礎学力育成シート(湘風力発電)」を1年次生に試行した。</p> <p>・「生徒による授業評価」では、後期に向けて多くの教科で授業評価が向上した。また、実習教科では、授業への自覚が高まり、見学者や欠席者が減った。</p>	<p>(1) 多様な進路希望に対応するため、教育課程の改善を引き続き行い、生徒の希望を最大限に生かした進路を実現する。</p> <p>(2)(3)</p> <p>・「確かな学力」の育成にきわめて有効な小集団学習や習熟度別学習のさらなる拡充を検討する。</p> <p>・「基礎学力育成シート(湘風力発電)」は、試行導入の結果を分析し、本格実施に向けて、より高い教育的効果を発揮できるように改良を行う。</p> <p>・「生徒による授業評価」の後期評価において、主体的に取り組めない生徒が若干増加している。勉強の意味を理解させるとともに、意欲を高める授業の工夫を行う。</p>	<p><学校評議員></p> <p>(1) キャリア教育の観点で、保育・福祉系の科目を継続してほしい。</p> <p>(2)(3)</p> <p>・基礎学力育成シートの導入は評価できる。得点記録用紙の活用など、工夫を重ねて、生徒の学習意欲を向上させてほしい。</p> <p>・視覚的教材の活用は、その場でわかったつもりでも定着しない可能性もある。「文章を書くこと」や「考える活動」を取り入れた方がよい。</p>	<p>(1)</p> <p>・単位制の特色を生かした科目(保育・福祉)を継続し、年次進行制を意識した教育課程を作成した。</p> <p>・進路希望に合う科目選択がなされない例がある。</p> <p>(2)(3)</p> <p>・基礎学力育成シート(湘風力発電)は、内容や採点方法の最適化、実施方法の改善、授業との関連付けなどに課題がある。</p>	<p>(1)</p> <p>・本校に適した単位制における年次進行の取組について、さらに研究する。</p> <p>(2)(3)</p> <p>・「基礎学力育成シート」の内容や導入方法、視覚的教材の活用方法、コミュニケーションを育成する授業形態(学び合い、グループ学習)などを研究・分析し、教育的効果を高める改善を行い、本校生における最適化をめざす。</p>
2 生徒指導 ・支援	<p>(1) 生徒の規範意識を育成し、社会や集団の一員であるという自覚を持たせる。</p> <p>(2) 学校生活への積極的な参加を通し、豊かな人間性やコミュニケーション能力を育成する。</p> <p>(3) 教育相談・支援体制の整備に努め、生徒一人ひとりの豊かな学校生活を支援する。</p>	<p>(1) 生徒指導の理念を明確にするとともに、目的的に特別指導を実施する。</p> <p>(2)(3) 自らの課題を進んで解決しようとする力を育むとともに、自他の生命や安全を大切にすることを醸成する。</p>	<p>(1) 生徒心得の目的や内容を確認するため、教員間の共通理解を図り、様々な場面で啓発・注意喚起を行い、集団における適切な行動を認識させる。</p> <p>(2)(3)</p> <p>① 生徒の実態を把握する各種アンケートの結果を教員間で共有し、自他の命や安全に対する意識向上を図る。</p> <p>② 学校行事や課外活動における生徒間の情報交換を促進し、コミュニケーションをとりながら、協力して課題解決する力を育み、他者を思いやる気持ちを培う。</p> <p>③ 保護者や外部機関と連携し、生徒が課題に主体的に向き合えるように支援する。</p>	<p>(1) 生徒心得の目的や内容を理解させたか。(生徒の状況観察、生徒指導件数、外部の方からの意見)</p> <p>(2)(3)</p> <p>① 各種アンケートを実施し、活用できたか。(アンケート活用状況、交通事故状況)</p> <p>② 生徒の行事や課外活動を促せたか。(生徒の活動状況、部活動調査の結果)</p> <p>③ 課題を抱える生徒を支援できたか。(生徒の状況観察)</p>	<p>(1) 全教員が生活指導に関する共通認識を持ち、統一した指導を継続して行うことができた。</p> <p>(2)(3)</p> <p>・生徒が抱える課題を全教員で共有し、必要な場合は外部機関の協力を得ながら、生徒の将来を見据えた適切な指導をチーム体制で行った。</p> <p>・文化祭では、実行委員が主体的に企画、運営を行い、96%の生徒が充実感を得た。(文化祭アンケート結果)</p>	<p>(1) 指導が浸透しない生徒への対応は試行錯誤の面があるが、個々の生徒に応じた粘り強い指導を継続する。</p> <p>(2)(3)</p> <p>・人間関係や家庭に課題を抱える生徒に対して情報を共有し、一致した指導を引き続き行う。</p> <p>・交通安全意識の向上と事故の減少をめざして、粘り強い指導を行う。</p> <p>・生徒が達成感や自信を持ち、活躍できる場をさらに増やし、効率的な行事の運営を進める。</p>	<p><保護者、学校評議員></p> <p>(1) 校外でも生徒がきちんと行動することが重要である。平塚湘風高校生としての自覚を育ててほしい。</p> <p>(2)(3)</p> <p>・交通安全意識を醸成し、事故防止に努めてほしい。</p> <p>・皆勤賞を授与された生徒が14名もいたことは、素晴らしい。卒業式で表彰してほしい。</p>	<p>(1) 生徒指導に関する教員の意識は統一されており、指導の一貫性は高いレベルで維持できた。</p> <p>(2)(3)</p> <p>・生徒が抱える課題を解決に向けて、教員がチーム体制でともに考え、励ましながら学業を支える必要がある。</p>	<p>(1) 全教員が「授業規律」の重要性や生徒指導の理念を確認する機会を設定する。</p> <p>(2)(3)</p> <p>・情報共有、共通認識をより図り、生徒個々に応じた指導、支援を継続する。</p>

3	進路指導・支援	<p>(1) 生徒一人ひとりの可能性を伸ばし、多様な進路希望の実現を支援する。</p> <p>(2) 生徒が自ら将来像を描き、主体的に生涯を生きる姿勢を育てる。</p>	<p>(1) 生徒の多様な進路希望に対応できる選択科目を設定する。</p> <p>(2) 望ましい職業観や豊かな人生観を育むキャリア支援を実践する。</p>	<p>(1) 面談指導や選択科目希望調査結果から、進路希望や興味・関心を的確に把握し、教科と年次が連携して適切な科目を配置する。</p> <p>(2)</p> <p>①各年次のキャリア行事に積極的に取り組ませ、進路意識を高め、社会的自立につなげる。</p> <p>②各種面談指導を通して生徒の学力や適性を早期に把握し、年次、グループ、教科が連携して個々の生徒に応じた支援を行う。</p> <p>③進路実現後は、社会生活の礎となるような指導を行う。</p>	<p>(1) 生徒の希望を生かす進路指導ができたか。</p> <p>(選択科目状況および進路実現状況、科目選択調整の内容)</p> <p>(2) キャリア行事への積極的な取組みを促せたか。(ワークシートの記入内容)</p>	<p>(1) 「基礎力診断テスト」結果分析会を春には教員対象に、秋には生徒にも実施し、外部講師からの分析や勉強法のアドバイスを直接伝えることができ、一定の成果を得た。</p> <p>(2) 各年次で、キャリア講演会、分野別進路ガイダンスなど多くの関連行事を行った。</p>	<p>(1) 基礎力診断テスト結果分析会は、春にも生徒対象に実施し、外部講師からのアドバイスを生徒自身が学力を客観的に把握する機会とし、学習意欲の向上につながるよう指導する。</p> <p>(2) 進路関係の外部機関と連携して情報交換を進めるとともに、体験的学習により進路意識を高める。</p>	<p><学校評議員></p> <p>(1) 卒業生の離職状況などを追跡調査し、キャリア教育に生かしてはどうか。</p>	<p>(1) (2)</p> <p>・「3年間を見据えたキャリア教育関連行事を実施し、進路実現に向けた準備とした。粘り強い指導を継続した結果、ほぼすべての生徒の進路が決定した。</p>	<p>・進路希望に合う科目選択のモデルパターンを明示するなど具体的な手立てを考える。</p> <p>・卒業生の動向を進路指導につなげる方法を研究したい。</p>
4	地域等との協働	<p>(1) 家庭や地域との連携により、パートナーとして愛され、支持を得られる学校づくりを推進する。</p> <p>(2) 小中学校との連携と協力により、教育課題の解決に向けた取組みを推進する。</p>	<p>(1) 生徒が社会の一員として生活することの意義を学ぶ機会として、地域の防災活動や行事に積極的に参加する。</p> <p>(2) 地域の小・中学校との連携協議会を活用して、“確かな学力“の育成についての研究を深める。</p>	<p>(1) 地域と連携した防災訓練や地域貢献活動を実施する。</p> <p>(2) 小中高連携教育交流会を中心に“勉強におけるつまずき”をテーマに研究し、教育接続の視点から解決策を研究し、“確かな学力“の育成につなげる。</p>	<p>(1) 全校生徒が参加する地域との連携活動ができたか。(防災訓練や地域貢献活動の実施内容)</p> <p>(2) 小中高連携教育交流会において十分な研究ができたか。(教育交流会の内容)</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全年次の地域貢献活動として地域清掃を行った。 ・福祉委員会と部活動の生徒が、地域住民の避難訓練に参加予定だったが、雨天のため中止となった。 ・グラウンドゴルフ大会を実施でき、地域の方々と交流できた。 <p>(2) 「確かな学力」の定着をテーマに教育交流会を開催し、活発な意見交換を行った。</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も継続して地域貢献活動を計画し、生徒が地域と交流する機会を増やす。 ・地域と連携した避難訓練を計画し、多くの生徒の参加を促す。 <p>(2) 小中高連携各校と行った研究成果を授業にフィードバックし、連携校相互で基礎学力向上につながる機会とする。</p>	<p><学校評議員></p> <p>(2) 小中高連携教育事業は、生徒への多面的評価をもたらす、自己肯定観の涵養につながっている。</p>	<p>(1) 地域関連活動により、多くの生徒が地域の一員として貢献・交流した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域と連携した避難訓練が雨天のため中止となった。 <p>(2) “わかる授業”の研究を小中高連携教育交流会で行い、教育接続の視点で貴重な意見交換の場とした。</p>	<p>(1) 地域と連携した避難訓練の雨天時の対応を検討する。</p> <p>(2) 小中高連携教育関連行事において、教育課題を共有し、解決に向けた研究を行う。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>(1) 生徒が安心して学校生活を送ることができる、安全な学校づくりに取り組む。</p> <p>(2) 一層の組織的な学校運営と業務の効率化を図る。</p>	<p>(1)</p> <p>①誠実に職務に向き合うことにより、生徒・保護者・県民から全幅の信頼を得られる学校づくりに取り組む。</p> <p>②防災計画の見直しを行うとともに、生命を守る防災教育を推進する。</p> <p>(2) 生徒への教育成果が、十分に還元される学校業務を目指す。</p>	<p>(1)</p> <p>①成績処理、進路関連書類の発行、入学者選抜において手順や点検体制を見直し、事故を防ぐ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安心・安全な学習環境を維持するため、清掃活動を徹底するとともに、美化意識の向上により主体的な活動とする。 ・定期試験における共通問題化の完全実施を目指す。 <p>②防災訓練・研修等を通して、生徒・教職員の安全に対する意識を向上させ、防災用品の計画的な備蓄を行う。</p> <p>(2) 学校運営の効率化に向けて、業務の見直しを行う。</p>	<p>(1)</p> <p>①成績処理、進路関連書類発行、入学者選抜を事故なく遂行できたか。(関連事故の有無)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・校内外の美化は保たれたか。(校内外の清掃状況) ・定期試験の共通問題化が図れたか。(共通問題の実施状況) <p>②効果的な防災計画を作成できたか。(防災計画の作成状況)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒、職員に対する防災教育と研修、防災訓練を実施できたか。(防災用品の備蓄状況) ・防災用品の計画的な備蓄はできたか。(防災用品の備蓄状況) <p>(2) 業務の見直しによる削減、集約化ができたか。(業務の削減・集約化の状況)</p>	<p>(1)</p> <p>①</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前の注意、きめ細かな点検を徹底した結果、事故の未然防止が出来た。 ・継続した指導と美化意識の定着が実を結び、良好な学習環境を維持することができた。 <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒職員に対して、例年行っている防災教育・防災訓練に加え、非常食喫食訓練や災害図上訓練(D I G)などを行った。 ・防災用品の補充及び用具の点検を行った。 <p>(2) 学校目標達成に向けた業務の集約を目ざしたが、新規事業に見合う削減はできなかった。</p>	<p>(1)</p> <p>①業務の精選を行い、成績処理を時間的にもゆとりを持って、行えるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・成績における公平性、透明性を確保するために、全科目で共通問題による定期試験を実施する。 <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災計画の継続的な見直しを行い、より実効性のあるものにする。 ・新たに行った非常食喫食訓練や災害図上訓練(D I G)に関して、さらに効果的な訓練となるように計画する。 ・今後も継続して、防災用品の計画的な備蓄を行う。 <p>(2) 各事業を有効性で評価し、削減と集中をセットで行い、教員力の集中を図る。</p>	<p><学校評議員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学者選抜においてマークシート方式の導入に対応し、適正に業務を遂行したことは評価できる。 	<p>(1)</p> <p>①事故防止に向けた実効性のある取組みを確実に実行し、業務を完了した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期試験の共通問題化を推進する。 ・安心・安全な学習環境が維持されている。 <p>②生徒の安全・安心を確保するための様々な取組みを実施し、災害への備えを行った。</p> <p>(2) 学校業務のスリム化を検討・実施する。</p>	<p>(1)</p> <p>①進路に関わる重要文書の発行や入学者選抜業務を引き続き確実に実行し、信頼される学校を維持する。</p> <p>②実効性の高い防災訓練を行い、生徒及び教職員の意識を高め、災害に備える。</p> <p>(2) 各グループで事業の再評価を十分にを行い、着実な成果を得る。</p>